

名前 _____

基本メニュー（☆☆☆）…必ずやりましょう。

	チェック
① 週テストの復習用を解く	
② 授業用テキストを読み直す 太字になっている部分は書いて覚えるとよい。	
③ 宿題用テキストの基本問題A・基本問題B・復習問題を解く	

応用メニュー（☆☆）…基本メニューが全て終わって、余裕があればやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題Aを解く	

発展メニュー（☆）…チャレンジしたい人はやりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題Bを解く	

担当より一言

今回は、気象観測について学習しました。

天気は、入試でも時事問題と絡めて出題されやすい分野です。

温度計の読み取りについては、メモリの10分の1まで目分量で読むことに注意をしましょう。これは、実験器具の読み取りの際の共通のルールです。

百葉箱については、正確に温度を測るための工夫と理由をセットで覚えましょう。理由を問う記述問題も頻出です。

気温の変化については、晴れの日よりもりや雨の日に比べて変化が大きく、最高気温が1番高くなることなどは経験からもわかると思います。しかし、深夜から明け方にかけては、くもりの日の方が気温が高いことも多いことに注意しましょう。そして、それはなぜなのか、理由も言えるようにすることが大切です。

雲については、まずは天気記号とそれぞれの天気の雲量を覚えましょう。雲の種類については積乱雲と乱層雲は知識として出てきますが、それ以外が出てくる場合は問題文からの読み取りとなることがほとんどです。

湿度については、将来的には計算問題として解けるようになる必要がありますが、今の段階では乾湿球湿度計から湿度を読み取れることが目標です。湿球の方が温度が低くなる理由とつなげて覚えてしまえばイメージが付きやすいはずですよ。